

目地バリシート(L型) 施工マニュアル

施工前



施工前の状態

路面の状態、目地部分の隙間、発生雑草の種類によって、適切な前処理を選択する。
(前処理の選択は裏面参照)

貼付位置だし



貼り付け位置(路面および壁面ともに80mm幅)をスケールで測定し、数箇所にチョークでマーキングする。

接着剤塗布



プライマーが乾いたことを確認後、L型専用接着剤を塗る。ムラが出ないように塗面が真っ黒になるように塗布する。

※使用目安
120g/m
(約120cc/m)

点検/確認



貼り付け作業からおよそ10～20分後に、接着剤の接着力が強くなっているかを確認し、弱いところは再度圧着または、接着剤を追加塗布する。
(接着剤の適正塗布量の目安に関しては裏面参照)

前処理



抜根除草・目地堆積物の処理

根カキなどを用いて、雑草の根や目地部に堆積した土埃を除去する。
※根かき作業の効率化に最適な機器があります。詳細は営業までお問い合わせください。

墨出し



数箇所にマーキングした部分に合わせ、ラインチョーク等で貼り付け位置にラインを入れる。

シーリング材塗布



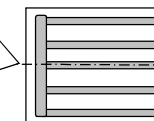
路面および壁面ともに墨出し位置から10mm内側にアタッチをシーリングする。

※使用目安: 1本/10m
(キャップ上から1段目と2段目の中間をカット)

追加処置(シート緊ぎ)



シート緊ぎ部はオーバーラップ50mmを取りアタッチで接着させる。進行方向に5列塗り、切り取り面は端から5mm部にシーリングして貼付する。貼り付け後は、ゴムハンマーで圧着する。



路面清掃



路面清掃

刈り取った雑草や土埃をホウキなどで除去する。ワイヤーブラシを用いて路面にこびりついた土埃を清掃し、ブロワーなどを用いて除去を行う。

プライマー塗布



施工面の砂埃を払い、刷毛などを用いてL型専用プライマーを均一に塗布する。

※使用目安 50g/m
約50cc/m
残ったプライマーは密封し、容器の記載に従い保管する。

シート貼付



シートを中央の溝に沿って折り曲げ、L型部分へフィットするように貼り付け、シートが浮かないように手で圧着を行う。
(接着力の目安は裏面参照)

追加処置(シーリング増し)



下地路面の凹凸が大きい場合は、アタッチでシーリング処理する。

④路面の処理

目地修正

目地が10mm以上開いている、または多年生雑草が発生している場合は根かきして目地バリセメントを目地に埋める。
また、路面に凹凸や窪みがある場合は、目地バリセメント等を用いて、施工面が平らになるように処理を行う。
目地バリセメントは1袋に対し、水600mLを目安によく混練して使用する。施工後は翌日まで養生をおこなう。

プライマーの養生(重要)

(塗布後の養生目安)

夏期: 10分以上 冬期: 20分以上

施工時の気温や、路面状態(窪みにプライマーが溜まる)によって、養生時間は異なる。L型専用接着剤を塗る前に、指で触り、乾燥を確認することが望ましい。(裏面参照)
養生が足りない場合、プライマーに含まれる溶剤により接着力に悪影響が出る恐れがある為、注意する。

シート圧着



ゴム製ハンマーでシートを均一に叩いて圧着させる。端部から接着剤、アタッチが多量にみ出した場合はヘラなどでかきとる。

完成



目地バリシート(L型)施工上の注意点

前処理の選択

現場条件に応じて、必要な処理を選択する。
()内の番号はマニュアルの番号に対応している。

○目地部分から雑草が発生している

⇒除草、抜根除草(手順②)

⇒発生している雑草が、チガヤ、ヨモギ、スギナ、ヨシなどの
地下茎を持つ多年生の雑草の場合(※)

⇒目地バリセメント充填(手順④)

○目地部分に土が堆積している

⇒目地堆積物の処理(手順③)

○路面に凹凸や窪みがある

⇒路面のセメント処理(手順④)

※スギナ、セイバンモロコシ、ヨシ、イタドリ、オオイタドリが生育している場合は、事前の除草剤処理が必要

接着剤の適正塗布量の目安

L型専用接着剤は、塗布した際に下地が薄く見える場合(写真左)は塗布量不足で接着強度が弱くなる。路面・壁面へ塗布する量の目安としては、**下地が見えなくなるまで**(写真右)塗布する。



プライマーの養生

L型専用プライマーの塗布について

プライマーはそれ自体が接着力を持つのではなく、施工面を目地バリシート(L型)が付着しやすくするための資材である。そのため、厚く塗りすぎても効果はなく、全体に均一に塗布することが重要。塗布後は溶剤の揮発のため、目安として、**夏期は10分以上**、気温の低い**冬期は20分以上**の養生が必要となる。



施工面の窪み

プライマーを大量に塗布すると、この部分にプライマーが溜まり、養生不良になりやすい。窪みのある場合は事前にセメントを充填するなどの処理が必要。



乾燥確認

目地バリシート(L型)貼付前に、溶剤が完全に揮発したか、確認を行う。目安の養生時間を過ぎても、塗布量や気温によっては乾燥しきっていない場合もあるので注意。

接着力の目安<L型専用接着剤>



最初に貼付を行ってから**10~20分後**に再圧着を行う(時間は気温により異なる)。その際に、接着剤の接着力が強くなっているか一部シートを引っ張り、確認する。接着剤が全体的に糸を引くような状態になっていると、再圧着した際にシートがしっかりと固定される。